

佐野 誠

「もうひとつの失われた10年」 を超えて

原点としてのラテン・アメリカ

読者への道案内

第I部 「ラテン・アメリカ化」のリスク

第1章 「失われた10年」を超えて——ラテン・アメリカの教訓

はじめに

1 3つの「失われた10年」

コラム 金融自由化とアルゼンチン債問題

2 忘れ去られた本来の構造問題

3 新自由主義改革の補正とその限界

おわりに：進歩的な社会経済改革と共生経済の調合に向けて

■2008年のエピローグ

第2章 中国はラテン・アジアとなるのか？

——「ブラジルの奇跡」から考える

はじめに

1 所得分配と経済成長

2 「ブラジルの奇跡」：不平等化、構造変化、高度成長

コラム ベリンジアの寓話～「経済成長率」に潜む価値判断

3 中国：東アジアのベリンジアか？

おわりに

■2008年のエピローグ

第II部 構造改革は何をもたらしたか

第3章 新自由主義改革、大量失業、雇用政策

——1990年代のアルゼンチン

はじめに

1 大量失業経済への大転換

2 新自由主義改革

3 雇用関係の柔軟化——労働改革と「日本化」

4 雇用政策とその限界

おわりに アリアンサ連合政権——「第3の道」は可能か

コラム 2001年末「アルゼンチン危機」に何を学ぶか

コラム 地域通貨は万能薬か

■2008年のエピローグ

第4章 グローバリゼーションと小零細企業

——フジモリ政権下のペルーの経験

はじめに

1 ヤミ小零細企業をめぐる見方：1980年代まで

2 マクロ政治経済環境：ポピュリズムから新自由主義改革へ

コラム ラテン・アメリカのオランダ病～日本への示唆

3 改革後の小零細企業

おわりに

■2008年のエピローグ

第III部 新自由主義の理論——批判と対案

第5章 開発パラダイムの比較分析

はじめに

コラム 社会自由主義国家

1 中進工業経済の概念的なマクロ・モデル

2 ポピュリズムの調整レジーム

3 新自由主義の調整レジーム

4 「社会自由主義」の調整レジーム

コラム プレビッシュと「社会自由主義」

おわりに

■2008年のエピローグ

第6章 IMFモデルの原理的批判

はじめに——IMF病の伝染：ラテン・アメリカからアジアへ

1 開発における新古典派総合？

2 標準的なIMFモデル

3 批判と改革の方向性

コラム トービン税は有効か

おわりに——「正しい特殊感覚」の復権に向けて

■2008年のエピローグ

第7章 雇用柔軟化の理論と現実

はじめに

1 歴史的背景

2 雇用柔軟化の理論的基礎

3 理論と現実の照合：実質賃金と失業率の相関

4 新古典派労働市場理論の問題点と今後の課題

コラム ラテン・アメリカの左傾化とニュー・ケインジアン

～チリからパラグアイへ

結びに代えて——文献案内

■2008年のエピローグ

第8章 経済自由化と通貨・金融危機——異端派はどうみたか

はじめに

1 資本流入の負の実物的効果

2 FNサイクル：通貨・金融危機の動態

コラム 日本のバブル経済にみるラテン・アメリカ的側面

おわりに

■2008年のエピローグ

参考文献